

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	大正区地域包括支援センター			
提出日	令和6	年	4	月 24 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等 ☐ 認知症高齢者等の支援 ☐ その他 ()	☐ 社会資源の創設 (居場所づくり等) ☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	さまざまな機関や地域とつながることで、一人ひとりの「気づき」を受け止めるセンターをめざして	
地域ケア会議から 見えてきた課題	認知症をもつ高齢者の支援では、独居で生活が破綻しているケースのみならず、被害妄想や暴言により同居家族との関係が崩れているケースが複数あった。周りが困っているが、本人は病状を認識していないため支援を拒否することが殆どで、介入に時間を要することが多い。また、家族の思いに対しても長い期間寄り添うことが必要である。さらに、世帯に生活困窮の課題が根底にあるうえでの医療、介護の介入を拒否する場合や、子どもが何らかの課題を抱えていると思われるでも制度に繋がっていない場合などは、包括が世帯支援として関わらざるを得ず、負担が大きい。地域住民やサービス事業所、区役所、医療機関など複数の目で見守れるよう日頃からの連携が必要である。	
対象	圏域内の高齢者や家族 民生委員や自治会長など地域の支援者、専門職	
地域特性	圏域内の移動手段がバスのみと不便であるため、若い世代の流入は少なく、地域活動の担い手不足が課題である。大型の公共施設や商業施設がないため、居場所となりうる場も少ない。さらに市営住宅の建て替えにより、独居高齢者が転居してくるケースも少なくなく、地域から孤立し、課題が潜在化する高齢者の増加が懸念される。	
活動目標	・認知症カフェを継続開催することで、当事者や家族のつどいの場としてのみならず、専門職との繋がりを生み出し、思いを受け止めることのできる場として活用する。 ・できるだけ早く支援に繋げるための地域関係者との連携や、発見後は保健師など様々な専門職と連携していく体制づくりが必要である。そのための取組みとして、相談会や啓発活動を行うとともに、それらの取組みをできるだけ多様な機関と連携して行う。	
活動内容 (具体的取組み)	・認知症支援の理解と啓発、居場所づくりのための認知症カフェ「マロンカフェ」を定期開催。(月1回／年11回) 出張認知症カフェ「つるちゃんカフェ」の開催。(年3回) ・老人福祉センター出張相談会(年6回)、平尾商店街で「平尾なんでも相談会」の実施。(年4回) 小林地域で地域との情報交換会を実施。(年2回) ・平尾商店街の空き店舗を活用し、区リハビリテーション連絡会、区役所栄養士と協働して介護予防をテーマとしたポスターを作成し掲示。(年4回) ・区役所(高齢福祉担当)及び北部包括と共催で、区保健福祉センター保健師との情報交換会、区役所(生活支援担当)との研修会を実施。(各年1回) ・済生会泉尾病院開催の「認知症予防塾」にて介護予防と自立支援の啓発活動。(年4回)	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・認知症カフェは計画通り定例開催ができ、参加人数も安定している。また、オレンジチームとランチ、家族会の協力のもと、家族介護者同士が話し合う場も継続できた。出張認知症カフェは1施設のみの開催に留まったが計画通りの回数を開催できた。 ・老人福祉センター出張相談会は計画通り実施。さらに小林会館に出向いての相談会を開催した。平尾商店街での取組みにあたっては生活支援コーディネーターをはじめ、地域関係者、介護事業者、区保健福祉センター保健師、医療機関など多様な団体と協働した。また、図書館や老人クラブ連合会での周知など、様々な機会を周知啓発を行った結果、「町会・地域関係」からの相談が33件(前年度比150.0%)に増加した。 ・多様な機関と連携し、複合的な課題へ対応してきた。結果、障がい者事業所の相談件数は55件(前年度比203.7%)となり、「つながる場」に繋いだケースも増加し、医療機関からの相談も増加した。	
今後の課題	多様な関係機関と協働する中で、より初期の段階あるいは予防的観点からの認知症予防、介護予防の啓発が必要と思われた。認知症予防および介護予防の観点から認知症カフェという居場所を継続するとともに、健康増進の意識及び行動変容を促すための、地域以外でのインフォーマルな場のひとつになるように継続的な取組みを検討していく。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和6年7月25日 (木)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	認知症カフェや出張認知症カフェを定期的に開催して、参加者も継続して参加できており、認知症の方やご家族の居場所作りや、周知啓発活動を継続できていました。 近隣高齢者の変化を早期に気付ける、地域住民の一人ひとりの「気づき」を受け止められるよう今後も地域関係者や専門職と連携し、支援の必要な高齢者に早期に気づける取組みを継続していただきたいと考えます。	

* 今後の取組み継続に向けて、区
地域包括支援センター運営協議会
からの意見等を記載。